



2021年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年7月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL https://www.shochiku.co.jp
 代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 迫本 淳一
 問合せ先責任者（役職名） 取締役 （氏名） 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 2020年7月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2021年2月期第1四半期の連結業績（2020年3月1日～2020年5月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第1四半期	8,608	△63.2	△1,469	—	△1,810	—	△4,378	—
2020年2月期第1四半期	23,397	8.3	863	△4.6	614	23.4	334	11.7

（注）包括利益 2021年2月期第1四半期 △3,738百万円（－） 2020年2月期第1四半期 △1,725百万円（－）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第1四半期	△318.77	—
2020年2月期第1四半期	24.31	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第1四半期	190,046	87,138	45.6	6,310.85
2020年2月期	195,336	91,292	46.5	6,610.12

（参考）自己資本 2021年2月期第1四半期 86,685百万円 2020年2月期 90,797百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2021年2月期	—	—	—	—	—
2021年2月期（予想）	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2021年2月期の配当につきましては、現段階では未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、配当予想を速やかに公表いたします。

3. 2021年2月期の連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

2021年2月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスによる影響を現段階において合理的に算定することが困難であることから未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期1Q	13,937,857株	2020年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2021年2月期1Q	201,948株	2020年2月期	201,782株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期1Q	13,735,969株	2020年2月期1Q	13,737,162株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

2021年2月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスによる影響を現段階において合理的に算定することが困難であることから未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。なお、詳細につきましては添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大が国内外の経済をさらに下振れさせるリスクを含み、個人消費も急速な減少が続くなど極めて厳しい状況にありました。

このような状況下、当企業グループは新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、映画館が段階的に休館となり、演劇公演も中止または延期が相次ぐ中で、より一層の経営の効率化に努め、営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高8,608百万円(前年同期比63.2%減)、営業損失1,469百万円(前年同期は営業利益863百万円)、経常損失1,810百万円(前年同期は経常利益614百万円)となり、特別損失4,474百万円及び法人税等調整額△1,900百万円の計上等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は4,378百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益334百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。なお、当社の組織変更に伴い、当企業グループにおける経営管理体制を再検討した結果、当第1四半期連結会計期間よりセグメントの区分を変更しております。従来「その他」に区分しておりました音楽著作権の利用開発・許諾等を「映像関連事業」に、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売等を「演劇事業」にそれぞれ変更しております。このため、前年同期との比較については、セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

(映像関連事業)

配給は、3月公開の「Fukushima 50」「一度死んでみた」等の作品が好評を博しましたが、同月下旬より休館となる映画館が増加し、公開予定日を延期せざるを得ない作品がありました。興行は、全国的に新型コロナウイルス感染症の影響で低調でしたが、(株)松竹マルチプレックスシアターズにおきましても、各都道府県からの要請や緊急事態宣言の発令により、3月以降に順次、営業時間短縮や休館とした影響が大きく、厳しい結果となりました。CS放送事業につきましては、松竹ブロードキャスティング(株)において、計画通りに利益を確保いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,623百万円(前年同期比64.4%減)、セグメント損失は1,196百万円(前年同期はセグメント利益202百万円)となりました。

(演劇事業)

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、政府要請を受け3月以降も引き続き当社の直営劇場である歌舞伎座、新橋演舞場、大阪松竹座、南座をはじめとする公演を中止いたしました。その間、営業再開に向けての準備を進めてまいりましたが、緊急事態宣言の発令もあり、結果的に当第1四半期連結累計期間における直営劇場を含むすべての当社製作公演につきましては中止または延期となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は868百万円(前年同期比87.5%減)、セグメント損失は642百万円(前年同期はセグメント利益144百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸では、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル(銀座松竹スクエア)、東劇ビル、新宿松竹会館(新宿ピカデリー)、有楽町センタービル(マリオン)、松竹倶楽部ビル、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、浜松松竹ビル、京都松竹阪井座ビル及び大阪松竹座ビル(地下飲食街)等が満室を維持しており、全体でも高い稼働率で安定収入に貢献しました。また、各テナントとの賃料交渉にも誠実に対応し利益確保に努め、効率的運営、経費削減を推進し、計画どおりに利益を確保しました。4月には浅草六区松竹ビルが竣工、5月より賃貸を開始し、日本ビューホテル株式会社にてホテル開業に向けた準備を進めております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,930百万円(前年同期比1.7%増)、セグメント利益は1,458百万円(同11.3%増)となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品販売、及び松竹歌舞伎屋本舗事業やイベント事業につきましては、コロナ禍の影響を受けていずれも厳しい結果となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は185百万円(前年同期比67.8%減)、セグメント損失は194百万円(前年同期はセグメント損失6百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5,289百万円減少し、190,046百万円となりました。これは主に現金及び預金が減少したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,135百万円減少し、102,908百万円となりました。これは主に長期借入金の増加があったものの、支払手形及び買掛金、1年内償還予定の社債、1年内返済予定の長期借入金が減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ4,154百万円減少し、87,138百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の増加があったものの、利益剰余金が減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の連結業績予想につきましては、現時点では新型コロナウイルス感染症の終息時期の見通しが立たない状況であるため、合理的に見積もることは困難であることから引き続き未定としております。映画館におきましては、6月以降の休館はありませんが、以前の営業形態には戻っておりません。また演劇公演におきましても、歌舞伎座以外の公演の再開は未定となっております。今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,544	15,993
受取手形及び売掛金	7,719	4,037
商品及び製品	1,833	1,721
仕掛品	2,985	4,294
原材料及び貯蔵品	133	99
その他	2,708	3,580
貸倒引当金	△35	△20
流動資産合計	36,889	29,707
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	43,851	46,795
設備(純額)	11,753	12,583
土地	41,890	41,892
その他(純額)	9,762	6,225
有形固定資産合計	107,257	107,495
無形固定資産		
その他	2,647	2,605
無形固定資産合計	2,647	2,605
投資その他の資産		
投資有価証券	27,819	28,794
退職給付に係る資産	742	678
その他	20,174	20,961
貸倒引当金	△194	△196
投資その他の資産合計	48,541	50,238
固定資産合計	158,446	160,339
資産合計	195,336	190,046

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,718	3,036
短期借入金	4,186	3,931
1年内償還予定の社債	1,100	-
1年内返済予定の長期借入金	11,925	10,901
未払法人税等	993	657
賞与引当金	530	389
公演中止損失引当金	343	830
その他	9,212	9,245
流動負債合計	35,008	28,991
固定負債		
長期借入金	48,923	54,353
役員退職慰労引当金	1,014	962
退職給付に係る負債	1,476	1,468
資産除去債務	1,407	1,359
その他	16,212	15,771
固定負債合計	69,035	73,916
負債合計	104,043	102,908
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	22,143	17,350
自己株式	△1,456	△1,458
株主資本合計	83,841	79,046
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,723	7,444
為替換算調整勘定	△36	△55
退職給付に係る調整累計額	268	248
その他の包括利益累計額合計	6,955	7,638
非支配株主持分	495	452
純資産合計	91,292	87,138
負債純資産合計	195,336	190,046

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)
売上高	23,397	8,608
売上原価	13,636	5,464
売上総利益	9,760	3,144
販売費及び一般管理費	8,897	4,613
営業利益又は営業損失(△)	863	△1,469
営業外収益		
受取利息	1	3
受取配当金	0	0
持分法による投資利益	21	—
その他	38	64
営業外収益合計	61	68
営業外費用		
支払利息	160	146
借入手数料	97	21
持分法による投資損失	—	58
その他	52	182
営業外費用合計	310	409
経常利益又は経常損失(△)	614	△1,810
特別損失		
固定資産除却損	70	162
公演中止損失	—	※1 3,177
臨時休業等による損失	—	※2 1,134
特別損失合計	70	4,474
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	544	△6,284
法人税、住民税及び事業税	611	37
法人税等調整額	△398	△1,900
法人税等合計	212	△1,863
四半期純利益又は四半期純損失(△)	331	△4,421
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	△42
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	334	△4,378

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	331	△4,421
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,037	721
為替換算調整勘定	—	△19
退職給付に係る調整額	△17	△19
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	0
その他の包括利益合計	△2,056	683
四半期包括利益	△1,725	△3,738
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,722	△3,695
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	△42

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期連結貸借対照表)

前連結会計年度において流動負債の「支払手形及び買掛金」及び「その他」に含めて表示しておりました「公演中止損失引当金」は、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動負債の「支払手形及び買掛金」として表示していた7,055百万円は、「支払手形及び買掛金」6,718百万円、「公演中止損失引当金」337百万円に、また「その他」として表示していた9,217百万円は、「その他」9,212百万円、「公演中止損失引当金」5百万円として組替えております。

(四半期連結損益計算書関係)

特別損失の内容

前第1四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)

※1. 公演中止損失

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当社の直営劇場をはじめとする演劇公演を3月以降、中止または延期といたしました。このため当該公演にかかる製作費・人件費・地代家賃等を公演中止損失として特別損失に計上しております。

※2. 臨時休業等による損失

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当企業グループが運営する映画館をはじめとする営業施設において営業時間の短縮及び休業を実施いたしました。このため臨時休業中に発生した人件費・地代家賃・減価償却費等を臨時休業等による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	13,004	6,936	2,881	574	23,397	—	23,397
セグメント間の内部売上高又は振替高	28	45	516	159	748	△748	—
計	13,032	6,981	3,398	733	24,145	△748	23,397
セグメント利益又は損失(△)	202	144	1,310	△6	1,650	△787	863

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益の調整額△787百万円には、セグメント間取引消去10百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△798百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	4,623	868	2,930	185	8,608	—	8,608
セグメント間の内部売上高又は振替高	13	50	479	11	554	△554	—
計	4,637	918	3,410	196	9,162	△554	8,608
セグメント利益又は損失(△)	△1,196	△642	1,458	△194	△574	△894	△1,469

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益の調整額△894百万円には、セグメント間取引消去△188百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△705百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の組織変更に伴い、当企業グループにおける経営管理体制を再検討した結果、当第1四半期連結会計期間よりセグメントの区分を変更しております。従来「その他」に区分しておりました音楽著作権の利用開発・許諾等を「映像関連事業」に、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売等を「演劇事業」にそれぞれ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

多額な資金の借入

当社は、2020年5月25日開催の取締役会決議に基づき、以下の借入を新たに行っております。

1. 契約締結日 : 2020年6月30日
2. 借入先 : 株式会社日本政策投資銀行
3. 借入実行日 : 2020年6月30日
4. 借入金額 : 10,000百万円
5. 借入利率 : 固定金利
6. 返済期限 : 2022年6月30日
7. 担保提供資産 : なし